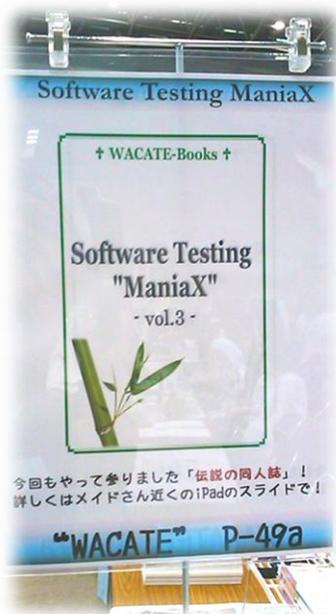


# WACATE ワカテ マガジン Magazine Vol.21



## ✿ ご挨拶 ✿

こんにちは。WACATE-Magazine 編集部です♪  
今年は残暑が厳しくなりそうですが、いかがお過ごしでしょうか？

残暑は厳しいかも知れませんが、その代わりに  
秋までバーベキューが楽しめそうですね♪

さて、Software Testing ManiaX も発行され  
WACATE 2010 冬に向けて、WACATE 実行委員も走り出しました。

巷では JSTQB の試験が終わったばかりで一段落ですが  
勉強の秋に向けて、更に加速していきましょう！

それでは Magazine021 号始まるよー！

## ✿ vol.21 のお品書き ✿

- p.01 ご挨拶/お品書き/WACATE TOPICS
- p.02 【特集 1】 JaSST' 10 Kansai 真夏の暑さにも  
"負けないテスト" シンポジウム Report!
- p.07 【特集 2】 JaSST' 10 Hokkaido 開催のお知らせ
- p.08 【特集 3】 JaSST' 11 Tokyo Call For Papers ~論文募集~
- p.10 【リレーコラム】 ワカテにきく。
- p.11 【トピックス】 SoftwareTestTopics
- p.12 【連載】 池田暁の「ミュージカルに恋して」
- p.13 【不定期連載】 コヤマンの補給戦線異状なし！
- p.14 【連載】 源太郎の「開運ソフトウェアテスト占い」
- p.15 お知らせ/編集後記/おくづけ

## ✿ WACATE TOPICS ✿

[News] 8/16 日(日)、Software Testing ManiaX vol.3 を頒布してきました！！

ご来場の皆様、有難うございました！！

[News] 8/26 日(木)、SQiP シンポジウムで SIG をしてきました！！

[News] WACATE 2010 冬の開催日が 12/18~19 に決定！クローリングは待望のあのお方(お楽しみに)！

# JaSST '10 Kansai

## 真夏の暑さにも「負けないテスト」シンポジウム Report!!

### ■はじめに・・・

前回の WACATE-Magazine をご覧になって、

「あれ?! Kansai のレポートは??？」と思った皆様、大変お待たせいたしました m(\_ \_)m・・・Magazine の記事締切は通常 20 日、発刊日が 31 日予定なので翌月になったという話もありますが・・・ええ白状すると私が夏バテしておりまして(汗)強行体制がとれませんでしたorz・・・あ: 今回も鈍行列車で往復した上に、復路で落雷のため電車が止まって待ちぼうけをくらい、疲労困憊したという話もwww おかげさまで青春 18 きっぷにも関わらず特急あずさに乗る権利を得ましたけどお♪え? そんなことどうでもイイから早く本題に入れって?! w

ということで、ちょっと遅くなりましたが、JaSST'10 Kansai のレポートをお届けしようと思います◎  
今回はスター☆と愉快な仲間たち (= WACATE ファン) の協力を得てお届けしまぁす!!

JaSST'10 Kansai 7月30日(Fri)  
於 クリエイターズプラザ

共同実行委員長の武田 学 氏のご挨拶で始まりました!

今年は昨年より参加人数が多かったそうです! 確かに今年はいよいよ後ろのほうまで席が埋まっていました。JaSST Osaka として始まった当初は「テストってこんなもの?」という興味の要素が強かったのが、最近では「どのように行っていくのがよいか」という方向に推移している、とのこと。この傾向は Kansai に限らないのを感じています。

### ■オープニングセッション

#### 「シンポジウム主旨説明

#### ～JaSST 2010 Kansai の歩き方～

もう一人の共同実行委員長、森崎 修司 氏より、テーマについての解説とシンポジウムの流れについての説明がありました。

今回のテーマ「負けないテスト」の解説

・・・先に、「負けそうなテスト」って何だろう? モジュールが一部未完成ゆえ実施可能なテスト項目が不明だったり、仕様変更により振り回されたり・・・その反面が負けないテスト! 実行委員内でもりあがって、こういうのを「負けないテスト」と呼びましよう!! となったそうです。

続いてシンポジウムの流れを説明。

そして、「是非、「制約」と「解決」の対で考えてほしい。自身のプロジェクトにあてはめるにはどうしたらいいかを考えてほしい。」というメッセージでくくりました。

関西ならではのということで、お約束なノリで会場からの反応を期待するも、誰も反応してくれない(涙)ああ沈黙が痛いw (この空気は今年の北海道でもあったなああ;) きっとそれはシンポジウムゆえのちょっとマジメな空気を醸んだのかもしれませんが・・・単にすべっただけなのカもしれませんwww

### ■招待講演 1

「レビューとテストの効果を予測するための取り組み  
～ソフトウェア品質を目標どおりに向上させるには～」

板橋 吉徳 氏

### ■セッションレポート

品質向上のために(目標を達成するために)、メトリクスをとっているが効果が出ているのか? 品質向上活動の効果はでてるのか? という課題がある。

PDCA サイクルを実施した事例を紹介。

開発中に欠陥原因分析を、(なぜなぜ分析などで)再分析する。その結果、**原因工程が変わってくる**。コードの問題ととられていたものが、その前の工程(基本設計や詳細設計)に問題があったことがわかる。

再分析後の欠陥原因を分析して**取り組みを絞り込む**。パレート図を使い、**80-20 の原則**を利用。**上位の原因を解決しよう!**

上位の原因について、フィッシュボーンを利用、強化対策を立案。

強化対策として、重視したもの

- ・ 詳細設計のレビュー強化
- ・ 結合テスト仕様の設計強化

**強化対策により、システムテストへの欠陥の流出がどの程度抑えられるか、を予測できる。**

そして、この予測結果を検証していくと、欠陥密度が目標値を達成！前回にくらべ今回、詳細設計および結合テストで欠陥検出が増えている。

### ■セッション感想

検証結果で重視した点について明らかに効果がでていたことで、とても判り易い事例紹介でした。

### ■招待講演2

「オフショアにおける受入検査の考慮点」

茨木 良昭 氏

### ■セッションレポート

オフショア開発の現状から説明。

課題として感じていること、

- 日本側：品質の問題
  - コストアドバンテージの減少
  - (国内パートナーより工数が増える
  - 十国内側で工数が増える)

オフショア側：仕様書の曖昧さ  
両方：効果的な情報共有ができない

技術力は高いが、**品質に対する考え方が以下のように違う。**

- ・ 機能的に優れていればエラーを気にしない。
- ・ 独創的なプログラムなど、技術面で優れているか？  
＝品質が高い、という認識。
- ・ 仕様書に書かれたことのみ実現すればよい。

それに対し、受け入れ検査の考慮点を紹介。

オフショア先の根底にあるものとして、  
向上心が高い。が、非機能要求に対する意識が低い。  
合理的である。が、手抜きになることもある。  
プライドが高いので、質問することを恥と思う。  
言葉の壁がある。しゃべることができない。

上記を考慮して、工夫している点。

- ✓ 非機能要求の重要さを理解してもらうよう、お客様の声を直接きいてもらう、要求事項の背景も説明する。
- ✓ 指摘は細かく論理的に。影響範囲などプラスアルファも意識。
- ✓ ほめる。向こうからの提案も積極的に受け入れる。謝意も表わす。
- ✓ 仕様説明会を行う。

言葉の意味の違いに気をつける。(中国語も漢字を使うだけに気をつける必要がある。「以上」「以下」「空色」など。)

結果、まだ納期が守れなかったりテストが不十分だったりしているが、かなり良くなった。

オフショア開発メンバーの声として、当初「ルールが多い!」「要求が細かい!」という声があったが、その後**ルールの必要性を感じるようになり、お客様(ユーザー)の立場で考えることができるようになった。**

オフショア開発をうまくすすめるためには、**オフショア先の自主的な活動(非機能要求の必要性の理解や活動のためのルール作りなど)と、発注側の対応(「**対等の立場で**」自分たちもルールを守る!など)が必要。**

### ■セッション感想

オフショア先の国民性のよいところをとらえて、そこを利用した点は大いに学べるころではないかと思いました。「**対等の立場**」の意識はとても大事だと思います。

### ■招待講演3

「ユーザー視点からの提言  
～ 一般製造業の品質の考え方 ～」  
久々宮 信 氏

### ■セッションレポート

システムの発注者の立場からのお話。  
また、製造業(加工業)での品質とソフトウェア品質の違いについても解説。

自社内開発であれば、ユーザ要求に対しかっちりした仕様をかく。外部委託の場合は、実装に携われないため、RFPではかっちりできない(雲のような曖昧な形)仕様の見積もりの範囲はかっちりしているが、**自社内開発の場合とはギャップがある。**

上記を踏まえたシステム開発における外部委託発注の事例を紹介。

要件定義には時間をかけた。処理方法のレベルまで突っ込んだ話をした。

また、これくらいになるハズ!というデータ(テストデータや出力予定データ)量の目安を提示した。

しかし、テストの段階になると、かっちり決めたのに、予想通りの動きにならない。外注先にて要員不足(知見者の不足)。非機能要求の低いものができた。システムテストまで発注者が見ないことから、システムテストの時点で初めて問題が露見する……

それに対し、一般製造業とソフトウェア開発業の違いを考え、提言。

(一般製造業では) **テストで取り除くという意識が無い(それでは遅い:)**。不良品をつくらない考え。テストは不良品を取り除くのが目的ではなく、試験コストは可能な限り抑える。

ソフトウェアには「定格」(こういうことで壊れてはいけない)が無いのでは?

**定格を超えた使い方をしたらエラー処理(エラーを起こさない処理)がされなければならない。**

受け入れ試験は実施してみてもどうか。

発注者はテスト費用を払いたくない。開発者側の問題ではないの?

**テストしてあかんやったら作り直せばよい、という欧米的な考えから、日本的な考えにしていくほうがよいのでは?**

### ■セッション感想

実は私も初めは製造業の品質テストにかかわっていた側なので、違いはわかります。(ただ繊維業だったので結構作ってから問題みつけて対策するという現状もありましたけどね^^;)

テストで欠陥を見つければよい、という考えはまだまだあるのではないかと思います。ソフトウェア開発におけるテストの目的が変わっていくとよいな、と思いました。

午後はチュートリアルセッションとワークショップ+テクニカルセッションに分かれました。いずれも興味深く、正直どちらも受講したいセッションでした。

### ■チュートリアル

「テストの読み・書き・そろばん」

講師：宿口 雅弘 氏

### ■セッションレポートと感想

“品質とは“から始まり、**もじどおり”読み書きそろばん**”、テストの基本を丁寧に教えてもらいました。宿口さんの講義は非常に情熱的で、テストの世界にぐいぐいと引っ張りこまれる感じがしました。

大変テストの広範囲なところを半日に凝縮していました。

後半は、**基本的でありながら考えられた演習を交えながらテスト技法を教えてもらいました。**初心者にとっては大変内容の濃いチュートリアルだと思います。また、**参考の文献が、テスト本ばかりではなく論文をあげており、積み上げられたコンテンツ**だなと思いました。

ベースはJSTQBのFLにのっとり網羅されている。よって、テスト設計技法などの細かいところまで

は触れられていませんでした。実はそのところが聞いてみたかったので少し残念ですが、お話の範囲がこれだけ広範囲ですと時間の関係で難しいですね。

初心者の人にどのようにテストの考えを伝えるかという観点で見せていただいたが、手馴れた経験のある講義で参考になりました。

### ■ワークショップ・グループ討論

「ミニワークショップ ～負けないテスト戦略～」

角口 勝隆 氏

コチラも JaSST Kansai 恒例の楽しみ、ワークショップのお時間ですヨ♪

「負けない為のテスト戦略」

**戦術(テスト手法など)をつくしても戦略(テスト計画など)が不足しているとよくない。**

テスト計画をつくるところで、**分析が重要。**

そこで**観点を抽出**することで**気づきやすくなる。**

ということで、今回はテストの目的を考え、テスト対象を分析して観点抽出。更にテスト項目の優先度を決めていくワークショップが行われました。

### ■グループに分かれ自己紹介+チーム名決め

ワークショップの始まりはグループ作りからです。配られたA4用紙を縦に4つに折り、上から、次のことを書いていきます。

- ・好きな色とその理由3つ。
- ・好きな動物とその理由3つ。
- ・向こうから歩いて来る人の年頃。
- ・自分の名前。

これは、この後に行うワークショップのための、WACATEで言うところのポジションペーパーにあたります。

さらに、くるっと折ると、**三角の名札になる**と言う仕組みになっています。無駄がありませんね。しかも、

**名前の裏の位置に年頃がくる**という・・・w

グループ名も、これを利用して決めました。私のグループは、**緑・黄・赤・青**がそろったので、そういう名前になりましたw

### ■チーム内で楽しくアツク議論しながら成果物作成

ワークショップのお題は、「健康管理時計(クリスマス限定モデル)」の機能テストをするための、**テスト戦略**をたてることです。

作業は次の5ステップで進めました。

#### 1) テスト戦略の立案

分析の視点として**ユーザービュー**をペルソナ法で、**仕様ビュー**は**品質特性**を利用しました。例えば、25歳

OLにとっての機能性とか、34歳アウトドア派な男性にとっての使用性といった視点になりきって考えることです。なりきりには、**妄想が大事です**（違）

## 2) テスト観点の抽出（ユーザービュー）

## 3) テスト観点の抽出（設計・実装ビュー）

1) に対してのテストの観点（ねらいどころ）を考えます。

発想観点には、正常系／異常系／境界系・・・などがありますので、利用します。だんだん具体的にっていきます。

## 4) テスト項目の優先順位付け

3) までに作成したテスト項目に優先順位をつけていきます。「障害の可能性」と「障害の影響」の2つの軸で、それぞれ3段階に点数をつけ、足した数字を「リスク度」とし、リスク度の大きい順に優先順位をつけます。

## 5) 状況把握とテスト戦略の見直し

ここで負けそうな制約が出てきます。「2週間後の展示会でデモンストレーションを行いたい」という、経営層からの意向です。負けないように4) でつけた優先順位を検討し直します。

ミニワークなので、十分な検討はもちろんできませんが、グループメンバーの英知と経験を投入し、熱い議論ができました。

知識や観点を知っていることももちろんですが、**それだけではうまくいきません。繰り返し経験することで、知識や観点が生きてくるなあ**と思いました。

## ■テクニカルセッション A3-1

「ベンチマーキングによる生産性・品質の向上」

粕淵 清孝 氏

## ■セッションレポートと感想

上流工程からの戦略的な品質確保と生産性向上に迫られた際、**ソフトウェアテスト工学的アプローチとしてベンチマーキングを採用**することに。とは言え、同業他社や競合のデータを持っているわけではない。そこでIPA/SECが公開している「ソフトウェア開発データ白書」を利用してベンチマークを行ったというのが本発表の概要である。

調査範囲としては制御ソフトウェア開発のバージョンアッププロジェクト9件（Version 5~9）の統合テストを対象として、少ないコストで品質を確保できたかどうかを確認するというもの。発表内では、実際に計測したデータをグラフで示し、分析結果を示していくという具体的な内容であった。

ベンチマーキングを導入した事による効果として、**問題が発生した後に対処する**という後追いではなく、**未**

**然に防止する**という予防の考え方にシフトしていったこと、また**現場で気づきを入れて自主的に活動する**ようなことが挙げられていた。

ベンチマーキングを概要レベルでしか知らない筆者にとっては、具体例を見ることのできる興味深い発表。なお、ベンチマーキングについては複数の書籍が出版されているため、興味のある方はご一読されたし。

## ■テクニカルセッション A3-2

「品質保証駆動ソフトウェア開発」

小枝 徳晃 氏

## ■セッションレポートと感想

発表者の会社では、従来のウォーターフォール型の開発において、次工程担当での待機時間の増大や、システムテストの段階で問題が発生するなどの手戻りなどが問題視されていた。この問題を解決するための改善案として、**アジャイルによるイテレーティブな開発に直目された**ようだ。しかし、アジャイルをそのまま導入するには様々な問題があるため、**ウォーターフォールとアジャイルの開発プロセスを融合したプロセスを採用**したというのが本発表の概要である。

融合型のプロセスとしては、**最初に要求仕様のフェーズですべての要求を固定したのち、設計-実装-テストを1つイテレーションとして回し、最後に品質保証部門によるシステムテストを実施して終了**となる。ただし、この状態ではまだ問題点が多かったという。例えば、各イテレーションに品質保証部門が関わっていないため、開発部門によって実装順序が決まったり、最後のシステムテストによって多くの問題がみつかってしまったりといったようなものである。そこで、さらにプロセスに手を加え、**各イテレーションの最後に品質保証部門による予備テストを加える**ことにより、さらに改善させたという。

筆者としてはアジャイル開発ではない一般的なスパイラル開発としての差異が見えなかったことと、段階的開発=アジャイル開発としているように見えてしまった部分に違和感を覚えたのが残念である。

## ■テクニカルセッション A3-3

「限られた期間をトラブルから守るためのリスク管理」

平野 誠太郎 氏

## ■セッションレポートと感想

テクノロジーセッションの最後はリスク管理のお話。ワークショップセッションで取り扱ったリスクベーステストとリンクする部分もあるが、リスクベーステストの話ではなくリスク管理という一般的な話である。

まず、リスクとは何かを改め定義した後に**リスク管理のPDCA**について見ていく。そしてリスク管理のポイントとして、**リスク抽出の観点、リスクの絞り込み、リスクの対策方針、リスクの見える化**についての各論に入る。また、導入に当たっての注意事項や組織風土について言及し、最後にまとめと続く流れ。

リスク管理の一般的な話だが、実例としてテストに関する具体例とともに語られる内容は分かりやすいように感じた。ただ、テストに特化したリスク管理手法というわけではないし、もちろんリスクベーステストの話というわけでもないの、そこはお間違えなきよう。近年の短納期高品質という一種背反するように見える要求の中、限られた期間の中で最大限の効果、効率を求めるためにリスクに着目したリスクベーステストが近年特に広まっている。しかし、安易に導入することへの懸念点や危険性も叫ばれているように、**そもそもリスクの判定を誤ってしまっは目も当てられない**誤である。そのような中、本発表を通じて、今一度**リスクそのものについて考え直すきっかけを得る**ことは非常に重要なことではないだろうか。

### ■ふりかえりセッション

ワークショップ講師の角口さんによる「**振り返り**」ではなく「**振り返り**」セッションW  
**得たものを共有しよう!**ということで、チュートリアル参加者も含め、全員でワークショップの成果を共有  
※演習成果物より、角口さんが注目した点について、各チームの方に質問していきました。  
ワークショップを経て、**いろんなひとの特技を組み合わせることでよい成果がでる**。まったくその通りだと思います。

### ■各演習のワンポイント

#### 観点抽出のワンポイント

- 目標、目的の設定が大事
- 細かすぎないほうがよい
- など(メモしきれませんでしたorz)

#### テスト観点のワンポイント

- もれなくだぶりなく
- 抽象化

- 曖昧な部分が明確であること

#### 優先順位付けのワンポイント

- 定量的であること(具体的な数値にする)
- 視野を広げて検討(いろいろな立場で考えてみる)
- 複数人で妥当性を確認(1人だと偏見がでる)

### ■まとめ

どんな状況でもなんとかなる知恵と勇気は得られたでしょうか?現場で活用できるちょっとしたヒントを広めてもらえれば✿

「備えあれば、憂い無し」というが、本当にそうなのか?

その前に、憂いが無ければ備えも起こらないはず。リスクだらけの状況を避けたり逃げたりすることが賢明なのか?何もしないとっと大きなリスクを背負うことになる。リスクのない挑戦は無い。ピンチはチャンスなり!!

・・・というメッセージを送って締めくくりました。

クロージングは、共同実行委員長のお二人からご挨拶。このシンポジウムで共有したものを持ち帰り、活用して欲しい、というアツいメッセージが伝わる挨拶でした✿

### ■情報交換会

情報交換会は昨年同様、隣の会場で行われました。後ろのほうにはワークショップの成果物も展示されていました・・・が・・・見学に行くのを忘れて盛り上がってしまいましたwww

翌日は森崎先生を講師に招いた勉強会がありました。そのあとは・・・ええ我がスター☆がフィーバーしてましてwww(※前号の「今月のスター」参照)

さて、来月は北海道、そして東海と、また2箇所開催されますよ※北海道ではライトニングトークも募集しています。是非是非参加+挑戦してみてくださいね!

### 書いた人:

すたー(テクニカルセッションレポート)&ながた(チュートリアルレポート)&なかさや(ワークショップレポート)&ばんばん(その他)

# JaSST'10 HOKKAIDO 開催のお知らせ

来たる 2010/10/1 に、我らが母なる大地「北海道」で、通算 5 回目のソフトウェアテストシンポジウムが開催されます。そこで、そのお知らせを WACATE マガジン編集部のご好意で書かせていただくことになりました。

おっと・・・自己紹介が遅れました。  
JaSST'10 Hokkaido 実行委員の上田和樹と申します。

又の名を「北のキラ星」。

WACATE には 2 度ほど参加させて頂いておまして、テストについての勉強やらアツイ議論やら、なぜかバンド演奏などをさせてもらっています。

ソフトウェアテストシンポジウム「JaSST」は 2006 年に初めて津軽の海を渡ったのですが、自分は「いちファン」としてずっと参加してきました。そんなワタクシが実行委員になって 2 年目。右も左も、前も後ろも分からなかった昨年度とは違い、自分達の「色」を出せるようなシンポジウムにしたいなあと考えているのですが、そんな独り言などどうでも良くて、今年の JaSST 北海道の「出し物」を現段階で出せる範囲で紹介いたします。

## 【全体テーマ】

ゲンバノチカラ

～テスト実装 5 秒前！そのとき現場が動いた～

今年は、「現場」がキーワードです。JaSST 北海道は、シンポジウム 1 回目から「地方」という特色を生かして、「現場」に近い目線で「すぐに持ち帰って使える」ノウハウや知識を提供することがポリシーでした。そこで、今年は改めて「現場」をキーワードにしています。また「テスト実装 5 秒前」というのも、実はひとつの「隠れたテーマ」になっています。

## ① 基調講演：「現場の力をメキメキ引き出すテスト戦略」湯本 剛

・・・ご存知「ゆもつよ」さんです。テストの「現場」の第一線で闘ってこられた湯本さんの、どんな話が聞けるのでしょうか？タイトルに「テスト戦略」とあることで、「テスト実装」の直前に至るまでのダイナミックなプロセスについてのお話が聞けるに違いありません！

## ② 一般発表

ただ今調整中ですが、どうやらあの細〇さんを倒した男が、北海道発のテストメソッド(?)である「スーパークレー方式」の実践事例を発表するとか！いやあ、これは楽しみ！

## ③ ライトニングトーク

今年もやります！一人 5 分のネタ発表会！昨年度は WACATE の「スター」にも出場して頂きました！（アフロじゃなかったのが最大の心残りでしたが・・・）今回はどんなネタが飛び出すやら・・・。

## ④ ワークショップ：TEF 道『聡美塾』Presents 「ユーザー視点とテストの素敵なコラボ ～魅力あるソフトウェアを創り出すのはテストから～」

今年の TEF 道はワークショップを開催します。その名も「聡美塾」！

どこかで聞いた塾の名前ですが、そちらとは一切関係ありません！

北海道の特色である「ユーザー視点」でのソフトウェア評価と、ソフトウェアテストとのコラボレーション。さあ、一体どうなるのか！

・・・どうなるかはワタクシにもまだ分かりません！（汗）

道なき道を敢えて進む、われら道民のフロンティアスピリットにて新たな世界をお見せ出来ればいいなど考えております！

受付は 2010 年 9 月 24 日（金）18:00、または定員に達した段階で申し込みを終了させていただきます。参加希望の方は、どうぞお早めにお申し込みください。申し込みはコチラ↓

[https://www.e-toroku.jp/ticket/user/form/index.php?form\\_id=jassthokkaido](https://www.e-toroku.jp/ticket/user/form/index.php?form_id=jassthokkaido)

実行委員一同、皆様のお役に立てるような内容にするため日々励んでおりますので、是非ご参加ください！

※内容やプログラムは予告なく変更する場合がありますので、最新情報や詳細は以下の公式サイトにてご覧ください。

<http://www.jasst.jp/archives/jasst10s.html>

書いた人：北のキラ星

# JaSST'11 Tokyo Call For Paper — 論文募集 —

=====  
ソフトウェアテストシンポジウム 2011 東京  
JaSST' 11 Tokyo: Japan Symposium on Software Testing  
2011 in Tokyo  
<http://jasst.jp/>

## ●開催要項

日時： 2011 年 1 月 25 日 (火) ~ 26 日 (水)

場所： 目黒雅叙園 (東京・目黒)

<http://www.meguroga.joen.co.jp/>

主催： 特定非営利活動法人

ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER)

<http://aster.or.jp/>

基調講演： ソフトウェアテストおよび品質に関する  
有識者を海外より招聘予定  
(現在依頼中)

## ●論文募集要項

[対象分野]

以下のような分野の研究論文、事例論文あるいは事例発表を対象とします。

- ・ソフトウェアテストに関する
  - 技法
  - 実践事例
  - 支援ツールの開発や活用
  - 組織や管理、プロセス、改善
  - 理論
- ・ソフトウェアの信頼性
- ・ソフトウェアの品質
- ・ソフトウェアの安全性
- ・アプリケーション／ネットワークのセキュリティについてのテスト・評価
- ・組み込みシステムのテスト
- ・データベースのテスト
- ・アジャイル開発を活用したテスト実践事例
- ・プログラム解析や仕様解析 (仕様に対する静的解析)
- ・形式検証
- ・コードインスペクションの実践

※上記のテーマはあくまで例にすぎません。他にもソフトウェアテストや ソフトウェアの品質、信頼性に関する話題の提供を歓迎いたします。

## [募集内容]

以下の要領で発表を募集します。2010/8/月上旬から論文および論文概要の受付を開始いたしますので、ぜひご投稿をお願いいたします。

### (1) 研究論文

・研究論文 (論文概要ではありません) に以下の内容を添えて、電子的形式 (Microsoft Word 形式もしくは PDF 形式) で下記申込先までご送付下さい。実行委員会で査読いたします。

- 発表者の氏名、所属、E-mail アドレス、住所、電話番号
- 投稿論文の種類 (研究論文)
- シンポジウム当日の使用機器について以下に○印を付けて下さい。
  - [ ] OHP [ ] マルチメディア・プロジェクト
  - [ ] ビデオ (VHS) [ ] その他 ( )
- その他連絡事項

・研究論文は、4 ページから 8 ページを基本とします。フォーマットは以下からダウンロードしたものをお使い下さい。

[http://jasst.jp/dl/JaSST\\_2011\\_Template.doc](http://jasst.jp/dl/JaSST_2011_Template.doc)

・論文は、シンポジウム論文集として印刷配布いたします。また、当日発表用資料とともに開催後 JaSST の Web サイトに掲載いたします。

### (2) 経験論文

・企業などでの実践事例や活用事例、現場でのノウハウやちょっとした工夫などをご投稿下さい。  
・論文概要に以下の内容を添えて、電子的形式 (Microsoft Word 形式もしくは PDF 形式) で下記申込先までご送付下さい。実行委員会で審査いたします。

- 発表者の氏名、所属、E-mail アドレス、住所、電話番号
- 投稿論文の種類 (経験論文)
- シンポジウム当日の使用機器について以下に○印を付けて下さい。
  - [ ] OHP [ ] マルチメディア・プロジェクト
  - [ ] ビデオ (VHS) [ ] その他 ( )
- その他連絡事項

・経験論文は、2 ページから 8 ページを基本とします。フォーマットは以下からダウンロードしたものをお使い下さい。

[http://jasst.jp/dl/JaSST\\_2011\\_Template.doc](http://jasst.jp/dl/JaSST_2011_Template.doc)

・論文投稿時は、論文そのものではなく論文概要の提出でも構いません。論文概要は、A4 判で 1～2 ページを基本とします。フォーマットは以下からダウンロードしたものをお使い下さい。

[http://jasst.jp/dl/JaSST\\_2011\\_Template\\_abst.doc](http://jasst.jp/dl/JaSST_2011_Template_abst.doc)

この場合、論文はカメラレディ原稿締切までに作成をお願いします。

・論文は、シンポジウム論文集として印刷配布いたします。また、当日発表用資料とともに開催後 JaSST の Web サイトに掲載いたします。

### (3) 事例発表

・企業などでの実践事例や活用事例、現場でのノウハウやちょっとした工夫などをご投稿下さい。問題提起なども歓迎いたします。

・発表概要に以下の内容を添えて、電子的形式 (Microsoft Word 形式もしくは PDF 形式) で下記申込先までご送付下さい。実行委員会で審査いたします。

- 発表者の氏名、所属、E-mail アドレス、住所、電話番号
  - 投稿論文の種類 (事例発表)
  - シンポジウム当日の使用器具について以下に○印を付けて下さい。
    - [ ] OHP [ ] マルチメディア・プロジェクト
    - [ ] ビデオ (VHS) [ ] その他 ( )
  - その他連絡事項
- ・論文概要は、A4 判で 1～2 ページを基本とします。フォーマットは以下からダウンロードしたものをお使い下さい。

[http://jasst.jp/dl/JaSST\\_2011\\_Template\\_abst.doc](http://jasst.jp/dl/JaSST_2011_Template_abst.doc)

・発表資料は Microsoft Powerpoint 形式もしくは PDF 形式で作成して下さい。

・発表資料の抜粋をシンポジウム論文集として印刷配布いたします。A4 判で 1 ページから 3 ページを基本とします。フォーマットは 1 ページあたり 6 スライドとして下さい。カメラレディ原稿締切までに作成をお願いします。また、開催後 JaSST の Web サイトに掲載いたします。

※いずれのカテゴリもシンポジウムの主旨との整合性あるいは場所の関係等でお断りすることがあります。

※採択の場合、Web 掲載用の論文概要の提出をお願いします。字数は、全角で 200 字程度です。

### [日程]

- 2010/ 9/20(月) : 論文/論文概要締切
- 2010/10/下旬 : 採否通知
- 2010/11/中旬 : Web 掲載用概要提出締切
- 2010/12/上旬 : カメラレディ原稿締切
- 2011/ 1/25-26(火, 水) : シンポジウム開催

### ●申込先

ソフトウェアテストシンポジウム Web ページ (<http://jasst.jp/>) 内の「論文募集要項」「JaSST' 11 東京」のページからお申し込み下さい。(申込みは、2010/8/上旬から開始する予定です)

### ●問い合わせ先

E-mail: [tokyo-query@jasst.jp](mailto:tokyo-query@jasst.jp)

特定非営利活動法人

ソフトウェアテスト技術振興協会 (ASTER) 事務局  
〒105-0014 東京都港区芝 3-40-4 三田シティプラザ 4F  
株式会社クラフトワン内  
TEL : 03-5444-7601 FAX : 03-5444-8095

毎年、WACATE 実行委員も LT や発表等を行っているソフトウェアテストシンポジウム、JaSST Tokyo。

その JaSST' 11 Tokyo の開催のお知らせと Call For Papers、論文募集のお知らせが来ました。

毎年沢山の技術者が集まる、文字通り日本最大級のソフトウェアテストシンポジウム。

**是非読者の皆様もこの大舞台で発表をしてみませんか？**  
きっと、大きな大きな経験になります。

昨今では東海や北海道をはじめ、関東以外でのコミュニティ活動がとても活発に行われています。

関東は元気が無いと思われがちですが、負けていないくらいアツイ活動が行われているところもあります！  
最も沢山の技術者が存在する関東も、他地域に負けにくいくらい活発にいきましょう！

なお、去年は WACATE-Magazine 編集部もメディアサポーターブースを出展させていただき、WACATE のご紹介と Software Testing ManiaX の頒布を行いました (今年のメディアサポーターブース参加はまだ未定です)。

今年は…どうなるかお楽しみに！

書いた人：WACATE-Magazine 編集部

# なべっちゃんにきく

第21回：【ソフトウェアテスト、文化、WACATE】Nobitaさん

こんにちは。WACATE 復習会<sup>1</sup>をきっかけになべっちゃんからコラムを引き継ぎました Nobita です。普段は某企業で自社開発しているアプリケーションソフトのテスト、品質保証を担当しています。今回は開発やテストの現場における文化について、普段考えている（けれどもなかなか実務と結びつかない）ことを書いてみます。

## ●ソフトウェアと文化

「文化」の定義は様々ですが、ここでは「人間が自分自身ではりめぐらした意味の網（のようなもの）」としておきた営みなので、当然普遍的に適用可能な考え方が存在し、例えばワインバーグやデマルコの本などで説明されています。

しかし、そうした考え方を定着させるのは個人のレベルでも、組織のレベルでも容易ではありません。私の場合も、計画を立てても（実は想定可能な）「想定外」の事態に直面して慌てたり、間違っ（＝テスト仕様を満たさない）テストケースやテストデータを作ったり、担当者間で誤解したりなど、失敗には事欠きません。

それはただ単に私の頭が悪いからなのでしょう。確かにそうした面はありますが、問題は普遍的な方法論を適用することだけとは思えません。むしろ、適用するための方法として「文化」とも呼べる多様なプラクティスがありそうです。

それは単純な例としては、仮に本で読むなどして考え方を知っていたとしても、現実の問題と照合して適用できるようにするためにワークショップに出席したり、仕事のやり方を伝えるときにもユーモアや他分野とのアナロジーを使ったり、学習と自己管理のために試験を受けることにしたり、といったものです。

## ●プラクティスの場としての WACATE

私もとある偶然から WACATE に、また復習会に参加して、さらにこのコラムを引き受ける羽目になってしまいましたが、ワークショップや勉強会（という名の雑談会？）な



<sup>1</sup>復習会については、前号 Vol. 20 に掲載されたなべっちゃんの記事を参照のこと。なべっちゃんの呼びかけのもと、WACATE2010 夏に参加した参加者達が集まり開催された。



著者近影

どのイベントに参加することも、コラムを書かなければならない状況に自分を追い込むということも、方法論を体に叩き込んだり、モチベーションを高めたりする効果（それだけではないですが）があります。また自分では予想もしていなかった状況に直面して何かを学びます。

「アヒル部長」（写真）を上司その他に見立てて話をする、という話も聞きましたが、これも自分の話を筋が通ったものにするため、相手に伝わりやすい話し方ができるようになるため、自分の気持ちを落ち着かせるため…のプラクティスの一つです。しかし、それらの目的のためにアヒル部長（その他の人形）を使うという論理的、心理学的な必然性はありません。逆に、アヒル部長はプラクティスによって意味を与えられる存在であり、アヒル部長に語りかけるという習慣が続くことで、以前は考えなかった使い方が生まれるかもしれません。といった形で、プラクティスは現時点で明示できる目的を超えて開かれた可能性を持ちます。

小説の書き方に一つだけの正しい答えがないように、人間の限界を広げる、あるいは限界と向き合うためのプラクティスも、正しい方法が決まらないことで、多様な文化を持った豊かな世界が広がるのではないかとすると、限界があるということも悪いことばかりではなさそうです。

## ●終わりに

以上に示したのは、あまり上手く書けてはいませんが、私が普段考えているやり方（の一部）です。どのような側面を強く意識しているかは別として、おそらく読者の皆さんも人間の思考や行動について何らかのモデルを持って考えておられるでしょう。互いの考え方に触れることが新しい発想を生み出す上で何らかの助けになるかなと思って書いてみた次第です。

駄文につきあっていただきありがとうございました。

# Software Test Topics

当番：上田 卓由 (Magazine 編集部)

こんにちは、上田です〜♪

暑いですがね。。。めっちゃ暑いですがね。。。。

さてさて、それではお役立ち情報をお届けします〜

## 【PDF】Quality One Vol.11 2010年8月号

SQIP Web マガジン、Quality One の最新号がPDFでダウンロード出来ます。

## 【資格】第5回初級ソフトウェア品質技術者資格試験

開催日：2010年11月27日(土) 14時~15時

開催地域：東京、大阪、愛知、福岡 (予定)

試験料：10,500円(税込)

申し込み：9月中旬~下旬を予定

申し込みの開始はまだのようです。

定員になり次第申し込みが締切りのようですので注意です！

## 【資格】第1回中級ソフトウェア品質技術者資格試験

開催日：2010年11月6日(土)

開催地域：東京

試験料：15,750円(税込)

申し込み：9月中旬~下旬を予定

第1回が開催されます！

初級ソフトウェア品質技術者資格試験と同じ月に開催とのことなので、初級も中級も！という方は大変です。

こちらも申し込みはまだ開始してないようです。

## 【イベント】JaSST'10 Hokkaido

日程：2010年10月1日(金)

場所：札幌市教育文化会館

参加費：シンポジウム参加費、3,990円(税込み)、情報交流会、無料

「ゲンバノチカラ〜テスト実装5秒前！そのとき現場が動いた〜」

JaSST 北海道が開催されます！

基調講演は湯本剛さんによる「現場の力をメキメキ引き出すテスト戦略」。

なんと、情報交流会が無料です〜♪

## 【イベント】JaSST'10 Tokai

### ポスターセッション発表募集

日程：2010年10月22日(金)

場所：名古屋市中小企業進歩会館(吹上ホール)

JaSST 東海でのポスターセッションの発表募集が行われています。

ポスターセッションの日程は

- ・2010年9月12日(日)、ポスターセッション募集申込み締め切り
  - ・2010年9月17日(金)、採否通知
  - ・2010年9月30日(木)、予稿集用原稿締め切り
- となっています。

募集要項の詳細については、Webページを参照ください。

## 【イベント】JaSST'10 Kyushu

### 論文(ポスター発表)募集

日程：2010年11月26日(金) 9時30分~17時30分

(情報交流会 18時~19時)

場所：熊本市国際交流会館6, 7Fホール

JaSST 東海に引き続き、2010年11月26日(金)に開催予定のJaSST九州で論文(ポスター発表)の募集が行われています。

募集の日程は

- ・2010年9月21日(火)、ポスター発表募集締め切り
  - ・2010年10月上旬、採否通知
  - ・2010年10月29日、ポスター発表原稿提出締め切り
- となっています。

募集要項の詳細については、Webページを参照ください。

なんと、JaSST九州の次の日が、第5回初級ソフトウェア品質技術者資格試験なんです〜。

9月、10月、11月と予定がてんこ盛りです!!

このコーナーでは、書籍やイベントの情報を募集しています。

例えば、「来月勉強会とか OFF 会とか開催するんだけど掲載してくれない?」といったものでもOKです。

開催地も、日本全国津々浦々、どこでもかまいません。

情報をお待ちしております m(\_ \_)m

# 池田暁の

## ミュージカルに恋して。

【第二十一幕】—自信と成長—

### ♪まだまだ酷暑は続きそう

8月も終わり、ようやく涼しくなって・・・こないですね。暑さが大の苦手な私は毎朝汗だくになりながら出勤、会社のトイレでシャツを着替える毎日です。着替えると多少すっきりはするのですが、完全にとはいかず若干の気持ち悪さを抱えたままに仕事、やはり少々能率は下がっているように思います。はやく涼しくなって欲しいものです。(ー)

### ♪続・引越し

前回引越しについて書きましたが、気がついてみるとひと月が経過しています。まだまだダンボールは積み上がっているのですが、地道に整理したり、いらぬものを捨てたりして、徐々に生活空間が広がってきました。部屋が片付いてくると陽の光が入り部屋が明るくなります。そうすると気分も明るくなりますね。そしてやる気も出てきます。職場に目を向けても、自分の席はもちろんのこと、身の回りがちらかっていたり汚れていたりと気分がどうにもおちつかないものです。そうするとなんとなく仕事も粗雑になってしまうものです。**みなさんもたまに身の回りを眺めてみて、整理してみてもいいかもしれません。**30分程度の整理をするだけでもずいぶん違いますよ。おすすめは、つもりがちになる書類。いらぬものをがーっとシュレッダにかけてしましましょう！

### ♪エリザベート@帝劇が開幕！

引越後の荷解きの作業の間をぬって8月から上演されている東宝版エリザベートを観劇してきました。このコーナーでも何度か取り上げていますが、本演目は非常に人気が高く、宝塚版含めて何度も上演されている演目です。今回はトートがトリプルキャストになったりと多少のキャストの入れ替わりはあったものの、相変わらず豪華な陣容となっています。三人のトートそれぞれ一度は観劇しようと考えていますが、まずはこれまで出演しているキャスト中心の回にしてみました。エリザベート＝朝海ひかる、トート＝山口祐一郎の回です。

### ♪自信と成長

朝海ひかるは前回公演に引き続きエリザベートを演じるということになりますが、開演前はまだ前回のイメージが残っており不安なところがありました。宝塚を退団後の大きな役ということもあり、また初めて演じる役どころである、そして一路真輝や涼風真世のイメージがとても強いこともあって、どうしても比較してしまっていたからです。そんなわけで、今回も開演までは若干の不安を感じていたのですが、幕が開き、彼女の第一声が聞こえた瞬間に「なんかどっしりしてる！」とびっくりしました。以前に感じていた不安定さはそこにはなく、歌唱もダンスも、そして芝居も安定感というよりは重量感を感じさせるものとなっていました。特に二幕が良くて、「ああ、彼女はこの役を自分のものにしたのだなあ」と妙な感慨です。この日は観劇仲間たちとの観劇だったのですが、皆一様に「すごくうまくなった」とか「前回とは別物」という印象のようでした。思うに、**前回公演をやり遂げ、その自信がどっしり感に作用したのでしょう。**そして、役を一度でも把握することで、今度はその改善に力を注げるようになり、それが歌唱やダンス・演技に現れたのだと思います。

仕事も一緒に、初めての仕事はこなすことだけで精一杯ですが、それをしっかりやり遂げることで仕事が身につく、身についたことで改善に余力をさくことができるようになります。初めてのことはわからないことだらけ、そして手探りにならざるを得ないので、つらいことも多いのですが、**それでもあきらめずにやり遂げることが大切なのだなあ**と再認識しました。私も今一度自分が果たして自信を獲得できるような仕事ぶりなのか、再確認してみたいと思います。

### ♪終わりに

9月はエリザベートを二回観劇予定。そして、井上芳雄10周年記念コンサートに5回ほど通う予定です。非常に楽しい月となりそうです！<終>



# 補給戦線異状なし!

本コーナーはテスト業界という知的戦場で戦うテストエンジニアたちの糖質補給等を暑苦しく支える漢(おとこ)たちの物語である!

## Mission-5 : 定番って大切よ。ザ・スタンダード!

### 人物紹介

新兵: 元気ハツラツ×やる気ムンムンの新人。  
先輩は神だと思っているちょっぴり残念な子。たぶん 19 歳。

軍曹: 上には弱く下には滅法強いタイプのおっちゃん。  
33 歳窓際体育会系。精神年齢は 14 歳。

■ネタはあるんですが、漫才が、ね。

新兵: くっ…ぐんそおおおおおつおほおうう

軍曹: …あー。わかったわかった。久しぶり、だな。

新兵: うぐっ…うぐっ…ほ、ほかぁ…ほかぁ…

軍曹: 鬱陶しいわツツ!!!! (ドグシャアツ)

新兵: ぶはぁ…ひ、久しぶりの気合…ありがた…き…  
(バタツ)

軍曹: うむ。まあ半年ぶりくらいかのう。

新兵: ですよ…ほかぁもう寂しくて寂しくて…

軍曹: ええい! さわるなッ! 気持ち悪いッ!

新兵: やめません! 何せ、軍曹がいない間、  
僕は甘いモノを断っていたのですよ!

軍曹: な、なんだと…!

新兵: きっと軍曹は遠いところで甘いモノを食べれずに  
寂しい想いをしているのだと思って…だから、  
だから僕もガマンしていたのです! (はぁと

軍曹: 新兵…!

新兵: はい!

軍曹: くおの…痴れ者があぁあツツ!!!!

新兵: くはぁっ…(キラリと光る例のアレ)

軍曹: ワシがいない間にここ近辺のお菓子屋さんが  
淘汰されたらどーすんじゃあぁあ!!!!

ポク! ポク! ポク! ポク! ポク! ポク!

新兵: あわわわわわあぁあぁあぁあぁ…あぁん! もっと!

軍曹: (うわ! 気持ち悪ッ!)

新兵: ハハハ…もう…お嫁に行けないッ!

軍曹: 安心しろ。嫁にはそもそもなれんわ。

新兵: ガピーン!! (う〇た先生風)

軍曹: …まあアホな会話はさておき、貴様まさか、  
ただか出張ごときでこのワシが甘いモノを食わな  
いとも思ったのか?

新兵: …な、なんですと!

軍曹: ワシには昔から困ったときにはコレ!  
と決めた甘いモノがあるのだッ!

新兵: そ、それはなんですか!?

軍曹: うむ。よくぞ聞いてくれた。

それは…「**コージーコーナー**」だ!

新兵: え? 今〇さんと東〇さんのコーナーですか?

軍曹: **ファッカモン!!!!!!**

### メメタァ

新兵: ふにゃん!

軍曹: “銀座コージーコーナー” だ、バカモンが!

新兵: ああ、あの関東をメインに展開している、

昔からある、あの…普通ですね。

軍曹: そのとおり! あその**“ジャンボプリン”**には  
思い出があつてのう…(遠い目)

新兵: ああ、あの「ザ・プリン」みたいな、アレですね。

軍曹: そのとおり! 食べると「あ…プリンだ。」

みたいな、アレだ! 昨今のとろけるプリンも美味  
であるが、なんとなく懐かしい気分になりたい時に  
あのジャンボプリンの食感がたまらんう。

新兵: わかります、その気持ち! 僕も毎日コンビニで  
固めのプリン買って食べてますし^^

軍曹: …ふむ。そうか。

新兵: いやー、一昨日フェ〇マで買った「うれしいプリン」  
というヤツがなかなか手ごわくてですねー。

軍曹: ほおほお。

新兵: で昨日も「ジャンボプッチンプリン」を買ってしまって、  
さすがにやりすぎたかなあ〜って思っていたんです  
けど、軍曹が言うなら、ちょっとコージー…

軍曹: ふむ。それは良い心がけたが、新兵よ。

新兵: はい?

軍曹: **全ッ然、**

**ガマンしてないではないか!!!!**

ドグシャアツツツツツツツツ

新兵: ぶびばせん…ツ(スブラッシュ・涙)

### ■今月のウエボン。「ジャンボプリン」

銀座コージーコーナーの「ジャンボプリン」です。

懐かしい食感  
です。

ああ、プリン  
食ってるわ。

という感想が  
出ること請け合  
いです。

コストパフォーマンスは良いので、是非お試しあれ!  
※ジャンボなだけに量は多めです^^;



書いた人: コヤマン

# 開運

## 源太郎の ソフトウェアテスト占い

※「ソフトウェアテスト占い」とは…

日本の伝統的な暦で知られる気学(九気性)をもとに、日本由来の統計学とソフトウェアテストで培った時代の統計学を組み合わせ考察された占いである! (笑)

	生まれ年	9月の運勢
一白水星	S38/S47/S56/H2	運気は上昇しているが、 <b>周辺からの難問が起ころう。あまり深入りせず慎重な行動が吉となる。自身のことは現状の維持に努めるのが第一となる。</b>
二黒土星	S37/S46/S55/H1	<b>運気はまだ本格的な吉運とは言えぬ。外面の好事に惑わされず、焦らぬ事が肝要。</b> 単身での行動も危険が多いため慎重に考慮し、 <b>今は総て自重の時期とせよ。</b>
三碧木星	S36/S45/S54/S63	運気は未だ回復せず。 <b>先のことよりも現状をよく把握し冷静な行動が肝要。</b> 一つ踏み外せば谷底という状態を改めて心に刻みつけ <b>一步一步を大切に進むこと。</b>
四緑木星	S35/S44/S53/S62	運気は高揚しているが今は強引な行動は禁物。 <b>焦らず落ち着いて物事の対応に当たること。事業の拡張や移転などは控えよ。</b> 八方からの反発も多い月。
五黄土星	S34/S43/S52/S61	<b>運気は本命星がいまだ相剋のため低迷状態から抜け出すことが難しい。</b> 苦難が続くが <b>逃げず自分の周囲を堅固に守ること。運気は徐々に快方に向かう。</b>
六白金星	S33/S42/S51/S60	<b>運気は中宮星といささか不和となり相手に違和感を持たれることもある。</b> 誠意と慎重な行動で物事に対処することが必要。 <b>相手の目線で語りかけることが肝要。</b>
七赤金星	S32/S41/S50/S59	<b>運気は今月もまだ不安定な様相を示している。</b> いまはまだ大きな動きは控えた方が賢明。まだしばらくは <b>準備期間と考え情勢の変化を見極めるのが先決。</b>
八白土星	S31/S40/S49/S58	運気は今月も同じような状態が続いている。 <b>諸事願望も成就するように思えても、いま一步のところで手違い行き違いが起ころい逆転することもある。</b>
九紫火星	S30/S39/S48/S57	運気は思わしくなく、 <b>駆け引きの激しい月となる。</b> あまり長期の旅行は見合わせた方が無難。 <b>火災・水害に十分注意が必要</b> なため普段から十分心構えせよ。

月盤 四緑木星				年盤 八白土星			
南				南			
暗剣殺							暗剣殺
東	3	8	1	7	3	5	西
	2	4	6	6	8	1	東
	7	9	5	2	4	9	西
	五黄殺			五黄殺			
北				北			

## お知らせ

9月30日(木)にWACATE-Magazine vol.22 発行します!(たぶん)

次号の特集は「WACATE 2010 冬 情報!」を予定しています★

# 来たれ! 投稿戦士!

WACATE-Magazine では“ソフトウェアテストや品質に関する記事”を常に募集中です。

来たれ! 投・稿・戦・士!!!!

WACATE-Magazine はボランティアベースで発行されています。したがって原稿料は出ません。※ノーギャラです。

投稿いただいた原稿の掲載可否、掲載時期については編集部で決定させていただきます。

特定の商用ツールやサポートなど営利色が強い原稿は原則として掲載いたしません。

レイアウトなどは全て編集部で行います。また、特に戻り確認などは行いません。

単なる論文は掲載しません。紙面の雰囲気を読んだ、イイ感じな文体や内容をお願いします。

公序良俗に反すると思われるものについても掲載しません。

以上を了解した上で、覚悟完了! の方はWACATE-Magazine 編集部「[magazine@wacate.jp](mailto:magazine@wacate.jp)」まで、是非ご連絡ください。

折り返し、担当より要綱をご連絡いたします。

楽しい、そして役に立つ紙面にするため、是非ご協力いただければ幸いです♪

## ☆その他、WACATE-Magazine では以下の情報をお待ちしています☆

- 書籍情報(オススメ書籍情報も可)
- イベント情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- 勉強会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- オフ会情報(ソフトウェア/品質/テスト関連ならなんでも)
- デザート情報(甘いものならなんでも。イカス! やつで。)

などなど、お待ちしております♪

**WACATE**  
Workshop for Accelerating CApable Testing Engineers

来たれ  
次世代の  
戦士達よ!!!

WACATE実行委員募集中♪

### 編集後記

### ★★★ WACATE 実行委員募集中 ★★★

いいしょ★9月は芳雄分を大量にとるよ!

またー★8月はSQiP シンポジウム2010に行ってたくさんの刺激を頂きました(\*^-^\*)

よえだ★暑いですね。。。めっちゃ暑いですね。。。

コマン★残暑ざーんしょ! 次のデザートは冷たいヤツにしよーかなーw

はいはい★ドラム洗濯機を発注してから設置場所まで運べないことが発覚(涙)事前確認って大事だww

あらかみ★まだまだ、暑い日が続いておりますので、皆さんご自愛ください♪

★あくづい★

2010/09/07(tue)はっこ

WACATE-Magazineへんしゅす

✉[Magazine@wacate.jp](mailto:Magazine@wacate.jp)

<http://wacate.jp/Magazine/>